

② 2次・3次周産期施設から1次への患者の移動

バックトランスファー（逆搬送）：2次・3次で分娩など急性期が終わった後、一次産科施設に再入院して回復期を過ごす。超低出生体重時児の発育を近隣の産婦人科施設で行うなど（たとえば1,800gで2次・3次施設を退院し、2,500gまで1次産科施設で過ごす。）

【頻度】周産期の地域化が進んでいるところほど、多いものと考えられる（調査が必要である）：出産1万件の地域で、年間、その10%の約1000件のバックトランスファー。全国的には約100,000件

<資料> 1) 宮崎県都城医療圏（出産約2000件）の資料（出産、約2000件のうち、190~220件が、母体逆搬送を行っている。帝王切開で2日目、経膈分娩で翌日にバックトランスファー。

<資料> 2) 宮崎県延岡医療圏（出産約2000件）の資料（周産期センターNICU入院、年間約350例、そのうち、200例を、一次産科施設にバックトランスファー）

③ 1次周産期施設から「周産期以外の診療科」への患者の移動

緊急時（妊婦の脳出血疑いなど）で、直接、救命救急や脳神経外科への搬送

【頻度】極めて稀であるが、今後の可能性として重要。

非緊急時に、心臓病のチェックや、皮膚病のコンサルトなど

【頻度】頻繁に行われているものと考えられる。

④ 「周産期以外の診療科」から1次周産期施設への患者の移動

【頻度】極めて稀であろう。

⑤ 2次・3次周産期施設から「周産期以外の診療科」への患者の移動

周産期施設に、脳外科や整形外科が無い場合には、脳出血や交通事故などの症例で行われている。

【頻度】不明（調査が必要である、現在、大阪府にて調査計画中）

※ この移動が、同一病院の場合は、「周産期以外の診療科」において診療加算がつかない場合が多い。（加算が付くように改善できないか?）

⑥ 「周産期以外の診療科」から2次・3次周産期施設への患者の移動

救命救急センターに搬送された患者が、妊娠関連であった場合。

【頻度】数は少ないが、年間数例起こっているものと考えられる（調査が必要である、現在、大阪府にて調査計画中）